

平成25年度 AWiLシンポジウム

女性、仕事、リーダーシップ

— Make a Difference 的生き方の実践 —

【趣旨】

お茶の水女子大学では、女性リーダーの育成事業の一環として、多くの方々のご協力を頂き、平成23年度からA-WiL ※1シンポジウムを開催しています。

日本においては大学卒業生の約45%を女性が占めているにもかかわらず、経済、政治の領域での女性の活用は促進されておられません。なぜ女性リーダーが生まれにくいのか。どうすればリーダーシップを発揮する女性を一人でも多く育てていくことができるのか。本学卒業生、あるいは女性ひとりひとりが一歩を踏み出す（Making a Difference ※2）ことで、社会や文化のありかたを変えていく可能性を議論し、お茶の水女子大学から社会に向けて発信していきたいと考えています。

より具体的には、問題提起・問題共有を行うために、冒頭で資料映像をご視聴頂きます。さらに、（中間）管理職にある卒業生によるパネルディスカッションを通して、女性が責任ある地位に就く際に感じる壁や困難について、それらを可視化、共有しつつ、自ら一歩踏み出すことの重要性について、広く深く考えていきたいと思っています。

本シンポジウムを通し、参加者ひとりひとりが、真の男女共同参画社会実現の担い手となる勇気と励ましを得て、未来創造への第一歩を踏み出すことを期待しています。

※1 A-WiLとは、お茶の水女子大学の事業「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」（文部科学省特別経費 平成22年度～平成27年度）の英語訳「International Research Program for the Advancement of Women in Leadership」の略称です。

※2 本学校歌「みがかずば」の理念は、自分自身、そして身近なところから社会までも変えていく「Make a Difference」の実践であると考えています。常に問題意識を持ち、自ら積極的に周囲に働きかけ、社会に変革をもたらす、新しい時代のリーダーを生み出すことを本学のリーダーシップ養成理念としています。

モデレーター



野村 浩子 氏

日経BP社 日経マネー副編集長

1962年生まれ。84年お茶の水女子大学文教育学部卒業。就職情報会社ユー・ビー・ユーを経て、88年、日経ホーム出版社発行のビジネスマン向け月刊誌「日経アントロポス」の創刊チームに加わる。95年「日経WOMAN」編集部に移り副編集長に、2003年1月から編集長。2006年12月、日本初の女性リーダー向け雑誌「日経EW」編集長に就任。2007年9月、日本経済新聞社・編集委員。2012年4月より現職。著書に『働く女性の24時間』（日本経済新聞出版社刊）。

パネリスト

砂屋敷 真衣 氏

富士フィルム株式会社 ライフサイエンス事業部
マーケティンググループ マネージャー

1987年お茶の水女子大学家政学部家庭経営学科卒業。男女雇用機会均等法施行2年目である同年、総合職として富士フィルム（株）入社。プロ写真家向けカメラ・フィルムのマーケティング・販売促進に携わり、写真展や写真教室、キャンペーン等を企画実施。その後、化粧品を取り扱う事業部でマーケティングを担当。現在母親の介護のため休職中。女性総合職として働くこと、昇格すること、子育てや介護と仕事のバランスを保つこと等、前例がない中、周囲と連携しつつ取り組んでいる。

中正 由紀 氏

八王子市役所 都市戦略部自治推進課 課長補佐

1995年お茶の水女子大学大学院人文科学研究科史学専攻修了。翌年八王子市役所入庁。環境（清掃事業の総括部門で事業年報の作成を担当）、財務（市の予算を管理する財政課で予算査定や議会対応に従事）、高齢者福祉（介護保険制度改正への対応や高齢者計画の策定を担当）に関する各部署を経て、2012年都市戦略部自治推進課に異動。現在は課長補佐として、中核市への移行、都市間連携等を担当している。

大内 まどか 氏

鷗友学園女子中学高等学校 教諭・広報部長

1991年お茶の水女子大学大学院修士課程理学研究科化学専攻修了。同年、鷗友学園女子中学高等学校に着任、翌年専任教諭となる。創立以来理科教育に力を入れている同校にて、理科教員としてのキャリアを積む。2004年に同校広報部長に就任、社会で活躍する女性の育成に女子校の果たす役割が大きいことを広く知ってもらうために、同校の広報活動を積極的にを行っている。同時に部活動の顧問、理系の進路指導なども担当しつつ、子育てや趣味も両立している。

武石 恵美子 氏

法政大学 キャリアデザイン学部 教授

2001年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士（社会科学）。在学中より（株）ニッセイ基礎研究所に勤務、東京大学社会科学研究所助教授を経て、2006年に法政大学キャリアデザイン学部助教授に就任、2007年同学部教授。厚生労働省「労働政策審議会雇用均等分科会」等の公職も兼務。主な著書として、『雇用システムと女性のキャリア』（勁草書房）、『職場のワーク・ライフ・バランス』（共著、日経文庫）など。

